



私と絵てがみ

在日大韓基督教教会 川西教会
福田 朋子(兵庫県)



* 私と絵てがみ教室

今から6年前、自宅から徒歩1分のところに絵てがみ教室が開設されました。その前年の年末に、長く続けたフルタイムの仕事を辞めていた私は、何か新しいことをしてみたいと思い教室に通い始めました。今もマイペースで続けています。月2回、自宅での練習も必要ないという気楽さが、怠け者の私にも合っていたようです。

* 「みことば絵てがみ 100」のヴィジョン

継続できたモチベーションは、伝えたい人がいるということです。当時施設に入所した両親に、月数回絵てがみを送り始めました。高齢の両親にどうしても伝道したくて、聖書の御言葉を添えて100通送ろうと決意し、3年かけて達成しました。しかし、その過程で思いが与えられ聖書の御言葉を添えるだけでなく、その御言葉からインスパイアされた絵を描いてみよう、『みことば絵てがみ100』に挑戦しました。たくさんの方に送ることを前提とし、下絵を描いてコピーし彩色と文字は手描きで、というスタイルで描き進めていきました。

* 展覧会で発表

初めは冗談半分で100枚と目標をかかげましたが、驚いたことに展覧会まで開催することができました。聖霊の働きがなければできなかったことと思います。感謝なことに展覧会には多くの方が来てくださり、絵てがみ

を欲しいといただき、伝道に用いてくださる方もおられます。御言葉には力があると思います。しかし誰かが伝えなければ始まりません。伝えたならば後は神様が伝道してくださると信じます。

* 89と91の両親が信仰告白へ

さてこの展覧会から一年後、当時89歳と91歳の両親は洗礼の恵みにあずかりました。70年以上熱心な偶像礼拝者だった母が、電話越しに祈るとアーメンと応答することが今も夢のようです。神様のなさることは、私たちの想像を大きく飛び越えてしまうことを経験することができました。

* サムエル記上17章50節

この絵てがみを作成していた当時、夢を見ました。内容は忘れましたが「17章50節」という数字が頭に残りました。すぐに聖書を開くと一か所だけ該当する箇所がありました。

『ダビデは石投げ紐と石一つでこのペリシテ人に勝ち、彼を撃ち殺した。ダビデの手には剣もなかった。』

(新共同訳 サムエル記上17:50)

私にとって絵てがみは、この石投げ紐と小さな石です。神様は賜物の大きさには関心がないと思います。小さな賜物でも、忠実にその賜物を活かすことを望んでおられます。これからも、この絵てがみという小さな石を投げ続けたいと思います。

*「みことば絵てがみ」がJTJのインスタグラムよりご覧いただけます。



まあるい地球からのHOT便 46

～キリストの福音を文脈化する人生～

クリスチャンライフ学院 (CLI)

学長 重田 稔仁

クリスチャンライフ学院 (CLI) は昨年4月に産声をあげました。CLIは私が声掛けをした友人とビジョンを分かち合い、時として喜んだり議論したり、その積み重ねで1年近くをかけて設立しました。友人と設立したということに意味があると考えています。私はクリスチャンライフを豊かにするのは友と交わりをもち、友と一緒に歩むことであると感謝をもって実感しています。

神さまとの関係も含めて、クリスチャンライフの鍵はいかに関係性を育むかにあると思います。なぜかという私たちの人生の苦悩のほとんどが関係性の傷や困窮から来るものだからです。その結果人生が破綻することさえもあります。人間は罪人として、神さまとの関係を失い、また人間関係も傷つけています。私たちはその不幸から、御子イエス・キリストの贖いにより救い出されています。そのため、私たちの人間性は本来健全で、豊かであるはずなのです。しかし残念ながら私たちの教会やキリスト教の歴史を鑑みると、関係の破綻の傷跡がずっと残っています。私たちクリスチャンが愛にあふれた豊かな人生を歩むことを目指しても、なかなかそのような環境に身をおくことができないという葛藤があるのです。



精神疾患の原因には、人間関係の破綻や傷が大きく影響していると言われています。日本は人口比で見ると世界でもっとも精神科の入院ベッド数が多い国で、世界の精神科病床の約20%が日本にあると言われています。それに対してイタリアでは、精神病院が廃止されています。日本の現状は、人間関係の不調、不全について公的機関でサポートを行わず、個人任せ或いは家族任せで放置されていることに原因の一端があると考えられます。同様に教会でも人間関係に苦しむ方々のケアが放置されていることがあります。

クリスチャンライフ学院では、まずイエス・キリストにある神さまとの関係を建て上げ、イエス・キリストにあって隣人との関係をどのように育むことができるかについて、講師と学生が水平的な関係、双方向的な対話をとおして学びます。人間関係のあり方、育み方は常に模索するものであり、講師も含めて学生の皆さんがその途上にあります。CLIでは誰一人としてその正解に達したという方はいません。しかしキリストとともに、父なる神に向かっている旅路をともにしている私たちは仲間であり、兄弟姉妹であり、友なのです。この学院をとおして、キリストにある関係をいかに育んでいくかについて必ず学ぶことができると期待しています。どうぞ関心のある方はご連絡ください。資料、説明を求めて頂けたらと思います。

クリスチャンライフ学院 (CLI)
願書随時募集中! 秋学期聴講生募集中!

お問い合わせ

E-mail: kyoumu@christianlife.jp
TEL. 070-3310-7581



卒業生は今

主の山に備えあり

日本基督教団 板橋泉教会 牧師
渡邊 義明・エステルあきこ

尊い主の御名を心よりほめたたえます。私共は2011年3.11震災の混乱の中、JTJを卒業しました。またその日、先生方と同級生のご配慮によって、中野先生の司式によりJTJの教室で結婚式をしていただき、感謝な伝道スタートでした。

山谷での開拓開始

その年の4月より山谷(日雇い労働者の町)近くに居を定め、2～3名のホームレスの方と共に暮らしつつ開拓伝道を始めました。義明が14年ほど山谷にある教会に在籍し、ホームレス伝道に携わっていたこともあり、山谷の男性が5～6名集っていました。最初は自宅マンションで始めた開拓伝道でしたが、間もなくマンションの住民からのクレームがあり、その後は義明の職場ホスピスでの礼拝所、カラオケボックス、地区集会所等を借りて礼拝を続けておりました。その集会所も耐震構造に問題ありとのことで取り壊すことになり、行き詰まってしまいました。「会堂を与えてください」と祈り始めましたところ、一週間もしないうちに、知り合いの牧師から、東京都板橋区にある無牧の教会を勧められました。主の素早い応答と備えに心より感謝するばかりです。

板橋泉教会牧師に

2012年より、日本基督教団板橋泉教会[当時信徒3名(80歳代)]に移り住み、住宅地での宣教が始まりました。牧師館が二世帯住宅のようになっていたので、これまでの12年間に、住む場所を失った方々など10数名の方が数日～半年住まわれました。自立をサポートし、イエス様の救いを宣べ伝える中で、数名救われました。その中にはJTJを出て牧師になり、伝道牧会に励んでいる兄弟もおられます。ハレルヤ!

そして、お向かいのご婦人が地域で信頼を得ているクリスチャン(隣の教会の信徒さん)でした。この方のお子さんや友達を中心に「子供集会(ジョイフルキッズ)」「ゴスペル会」も始めました。このご婦人は灯が消えそうな教会を憂えて祈っておられたそうで、隠れた祈りに応えて下さった主をほめたたえます。コロナ感染

拡大前までは、子供と大人交えて街角コンサートを毎年開催していました。

歌ごえカフェと書道教室も

コロナ禍の中で、ギター好きの男性2名が救われ、2023年より「歌ごえカフェ」を始めました。第3日曜日14:00～カフェを開き、その中の30分程度の歌声タイムを通して、信徒が証しをし、ゴスペルソングや唱歌などを歌っています。また、「書道教室」を始めました(第3火曜15:00～)。講師も求道者で、書道の後に、賛美とミニメッセージをしています。

始めからおられ、今おられ、やがて来られる方が、常に共にいてくださることを感謝しつつ、これからも、主のみ言葉に聞き従って、主の備えを信じて歩んでゆけますように、救いのために用いられますように、夫婦で心一つにしてこれからも祈り、励んでゆきたいと願っています。

「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお「主の山に、備えあり」と言う。」(創世記22:14)



歌ごえカフェ



ゴスペル会&ジョイフルキッズゴスペル 合同賛美